

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「手をつなぎ、笑顔いっぱい、矢上っ子」
○自ら学び、課題解決に向け、ねばり強くやり遂げることができるようにします。(知)
○善悪を正しく判断し、規範意識や礼儀を大切にし、責任をもって行動できるようにします。(徳)
○自他の命を大切に、望ましい生活習慣と健康づくりに進んで取り組めるようにします。(体)
○まちの人との交流や支援をすすめ、地域と積極的にかかわれるようにします。(公)
○さまざまな人とのコミュニケーションを通して、社会への視野を広げられるようにします。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

問題発見・解決能力
コミュニケーション能力

具体化した資質・能力

問題を発見・理解する力 主体性・積極性
相手の思いを受け止めて聞く力 感じたことを言葉にする力

中期取組目標

○まちとともに歩む、誰もが安心して学ぶことができる、笑顔いっぱいの学校にします。
・「矢上っ子は全職員で指導する」を合言葉に、チーム体制で一人ひとりの心に寄り添った指導の充実を図ります。
・全職員が学校経営に主体的に参画し、教職員が相互に連携し、課題の共有・実践に努め、教師力を高めます。
・意図的・計画的かつ組織的な教育課程を編成し、質の高い誇りをもてる教育活動を創りあげていきます。
・人権感覚を育み、誰もが安心して豊かに学校生活を送ることができる環境をつくり、笑顔いっぱいの学校にします。
・学校・家庭・地域と連携し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (①「横浜市学力・学習状況調査」の結果分析を活用し、エビデンスに基づいた授業改善を図ります。②「主体的で対話的な深い学び」をめざし、課題解決学習を取り入れた授業改善を図ります。)

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童の実態
・学力は、市の平均より少し高いところに位置している。社会科・算数科は、基礎・基本より活用が低い。国語科・理科は基礎・基本より活用が高くなっている。
・学習の状況は、国語では、基礎が身に付いていて、活用する力が高くなってきている。全学年を通して、目的や必要に応じて自分の考えを書き力に課題がある。算数では、学年によって差が見られるが、市の平均よりも高くなっている。問題場面を円や式を結び付けて考えることが課題である。社会科は、市の平均よりも高い。基本的な内容は身に付いているが、資料から読み取ったことを自分の考えと合わせて表現することは課題である。理科は、市の平均よりやや高い。知識・理解は身に付いているが、学年によって差が見られる。実験結果を考察し表現する力が課題である。
・学習意識については、全体的にやや高い傾向にある。その中でも国語科の学習意識が高く、国語科の学習は大切であると答えている児童が多い。
(2)これまでの学校の取組状況
・基礎・基本の定着を図るために、繰り返し学習するようにしたり、個々の学習状況に応じて支援したりしている。
・できるだけ多くの体験を通して、自分の考えをもてるようにしている。
・重点研究会では、言語活動を工夫し、豊かな関わり合いのある学習の展開を図り、子どもたちが自ら考え表現するような授業について研究を進めている。

今年度の目標

豊かな関わりの中で自ら考え表現し、学び合う児童を育成するために授業改善を行います。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期 (6月24日 研修(国語), 9月16日 授業研究会(国語)), 下半期 (11月9日 区一斉授業研究会(理科), 11月25日 授業研究会(国語))

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (道徳・人権教育) and 具体的取組 (①道徳の時間を中心に自己を見つめる力を養い、規範意識と自尊感情を高めます。②たてわり活動や学級活動をはじめ、様々な活動を通して、異年齢や同年齢のつながりを築き、他人の心情を思いやる力を育てます。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる本校の児童の実態
・学校のきまりや、友達や家族との約束を守って生活している。
・友達を助けようとする姿や思いやる姿が見られる。
・自分の言動を省みたり、あやまったりすることができる。
(2)本校児童のこれからの課題
・道徳や人権感覚を意識した授業の取り組みを続けてきたことで、子どもたちの人権感覚が高まりつつあるが、自己理解や他者理解が十分でない場面も見受けられる。
・校内では守られている約束が、登校班や地域でも守られるようになることが課題である。
・自ら考えて行動する力(きまりを守る、あいさつをする等)をさらに育んでいく必要がある。

今年度の目標

お互いの違いを認め合い、その中で、よさを感じ取れる感性を育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期 (特別支援教室の実施(通年), 5月 YPアセスメント実施①, 9月 教育相談実施), 下半期 (10月 コーチング(6年), 11月 YPアセスメント実施②, 12月 人権週間・人権集会, 12月 教育相談実施, 3月 教育相談実施)

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (①栄養職員や養護教諭との連携の中で、基本的な生活習慣を身につけると共に、心身の健やかな発達や成長を支援します。②体力・運動能力テスト、生活意識調査の結果分析を活用し、エビデンスに基づいた体力向上実践に努めます。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)体育・健康に関する実態
・運動や遊びで体を動かすことに抵抗感をもつ児童は少ないが、休み時間に校庭で遊ぶ児童とそうではない児童とに二極化している。
・学校の校庭がとて狭く、また学区には公園や遊び場が少ないこともあり、児童の運動時間は全般的に少ない。ペラダにドッジボールコートを設置したり、体育館を開放したりするなど運動する場の提供を工夫している。
・リズム縄跳びの取り組みは、小さな取り組みを年間を通して数多く設定することで環境の課題を解決し、結果、児童は頻繁に運動する機会を得て、楽しんで参加している。
・朝食を食べていたり、十分な睡眠時間をとっていたりと健康的な生活習慣を身に付けている児童が多い。そのため、児童は落ち着いて学習活動に取り組んでいる。
(2)体力の概要と要因の分析
・体力テストの結果から、ほとんどの項目で市平均を下回っていることが分かる。また、ほとんどの種目で記録が下がっている。ただ、「運動やスポーツの実施状況」や「運動時間」に関しては大きく改善が見られるので、日々の体育指導やリズム縄跳びの取り組みを継続的に行うだけでなく、教師が運動を通して身に付けさせたい力を把握したり、意図的・計画的な指導をしたりすることで児童の運動能力を向上させていきたい。また、今年度も朝体育を全校で行うことで、巧みさと持続する能力を養っていきたい。

今年度の目標

運動機会の確保、学年体育を通したOJT、体育単元の補完などを計画して運動できる児童の育成を図ります。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期 (朝体育の実施, 4・5月ラジオ体操, 6月体力テスト, 7・8月水泳学習の約束, 9月学校保健委員会, 10月長縄), 下半期 (11月長縄, 12月持久走 健康集会, 1月長縄, 2月短縄 持久走, 3月短縄)